

学生の図書館の利用はどこまで進んでいるのか

竹内久直

図書館が異彩を放つ大学は、中身は別にして、一度は入学してみたい気持ちを起こさせるに足る、今様に言えば、学生を呼び込める、魅力ある大学になりそうです。かつて、米国のある大学の図書館を見て、まずはその容姿にうっとりしたものです。その図書館は、姿形だけではなく、中身もすばらしいものでしたが、

さて、我々の図書館はどうなのだろうか。見てくれは兎も角、勉学するために入学したはずの学生にとって、図書館はどれだけ利用されているのだろうか。その答えははなはだ疑問であると言わざるを得ません。

著者の受け持ちのクラスで、図書館の利用に関するアンケートに回答してもらった。一学部の一部の学生（回収数は、1年生45名（90名中）、3年生26名（60名中））なので、静大全学生の状況を把握するには難があるかも知れませんが、図書館の利用に対する学生の姿勢が大体出ているのではないかと判断されます。

まず、図書館に週何時間居るかと言う問いに対して、1年生の約50%、3年生の約30%が0時間と答えています。週1時間ぐらい図書館に居る者は、1年生で約20%、3年生で約30%でした。1年生の中に、大学外の図書館（市営）へ行くと回答した者がいました。これらから推して、入学して半年余りの1年生にとって、図書館へ足を運ぶ余裕がないのかも知れません。しかし、半年間で図書館に絶望したとも考えられ、もしそうだとすると、本図書館の将来が思いやられます。

次いで、週何冊の本を借りるのかと言う問いに対して、0冊、即ち本を借りない学生が、1年生で約80%、3年生で約50%でした。入学して半年有余の1年生にとっては、どんな本を借りていいものか、よく分からないと言うこともあるし、また、借りる手続きに何となく抵抗を感じているのかも知れません。

予習・復習に必要な本は、図書館で間に合うと回答した者は、両学年とも40%余り（1年生42%、3年生46%）で、同じようなことですが、宿題を果すのに必要な図書は、両学年とも60%余り（1年生42%、3年生65%）が図書館で間に合うという回答でした。講義を聞いて理解する上では、一応図書館で間に合わせている感じです。その一方で、図書が不足していると回答したものは、1年生では約60%、3年生では約40%でした。不足している本として、1年生は次のような本を挙げました。小説、文庫本、専門以外の本、分かり易い本、よんで楽しい本、新しい辞典、新書、音楽、軽い読み物、雑誌、百科事典、専門書（以上順不同で、学生の回答をそのまま重複を避けて上げました）。3年生は、専門書と実験書が圧倒的に多く、他に小説、美術、英語の雑誌（以上同じく学生の回答そのまま）でした。1年生と3年生の間では、入学して間もない者と専門課程に進んだ者の間の違いが出ていて、興味が持たれます。1年生には、幅広く色々の本を読みたいと思っている者が多い様で、結構なことだと思われます。また、3年生になると、

自分の将来が割合明確になって来る為か、1年生とはがらりと違って、自分の関連する専門書を求めている様です。

図書が不足していると回答したものが多いのは、実際図書が少ないこと、特に新しい本が少ないと言うことでもあります。図書の検索がうまく出来ないと言うこととも関係がありそうです。何故なら、図書の検索はうまく出来ますかと言う問いに対して、「できない」及び「やったことがない」と回答した者が、合わせて1年生では約50%、3年生では85%だったからです。この割合が3年生で高かったのは、入学したときに覚えた検索方法を、あまり使うことなく忘れてしまったものと思われます。1年生もその割合がかなり高いが、その方法の取得についての図書館の呼びかけに対して、遠慮しているのだろうか。或いは何となく応じ難いのだろうか。積極性に乏しい最近の学生の気質がよく現れている様に思います。

アンケートの最後に、図書館に対する不満を自由に述べてもらったところ、次に示した様に、いささか小言としか取れない不満を、1年生で約40%の者が、3年生では約70%の者が述べていました。図書館が狭くて、夏暑い。古い本ばかりで、新しい本が少ない。難しすぎる本が多いので、もっとやさしい本を置いて欲しい。本の種類が少ない。エレベーターを付けて欲しい。以下省略します。

以上、極く一部の学生に対する図書館の利用についてのアンケートの結果を中心に述べてきましたが、その結果は図書館に対する学生の姿勢を浮き彫りにしている様に思います。図書館側としては、学生が不満を口にするのは多少なりとも図書館に欠点があるからだ、と謙虚に受けとめて、改善を重ねていく必要があると思われます。例えば、古い本は、簡単に焼却出来ない現状では、どこかに保管して、新しい本（原則として10年以内をめどに）ばかりにして、図書館の空間を広くする。また、教官としては、自分の専門分野関連の本を、他の教官との重複を避けて確保し、その所在を明確にして学生に示せるようにすべきであると思います。

(農学部応用生物化学科・図書館委員)

とっ さき やま 突 先 山

土 田 和 博

秋の一日、紅葉に誘われて静岡の山に登った。以下は、同行者から聞いた話の一部である。

突先山は足久保の奥にある標高1,000m程の山で、里からみると槍ヶ岳のように頂上が尖ってみえる。安倍奥の山に登りに行くときにも、安倍街道からその尖った頂上を眺望することができる。標高が低いせいか槍ヶ岳のような孤高さはないが、そのピラミッドはとても美しく、特に釜石峠から分岐して頂上を目指す途中、開けたところで突然目に入ってくるその三角錐は目に焼き付いて離れない。

突先山への登り口は何本かあるが、足久保奥の奥長島から登るのが一般的である。このコースは沢沿いのルートだ。沢を何度か渡りながらどんどん高度をかせいでいく。1時間半ほどで釜石峠に着くと、山頂までは30分程である。ずっと樹林帯の中を歩くから、土は柔らかく足に優しい。

突先山に魅力を感じるのはその均整のとれた山容からだけではない。水がうまいのである。奥長島からのコースではおいしい水を心ゆくまで楽しめる。今までにいくつかの山に登り名水なるものを飲んだが、足久保の水に勝るものはなかった。八ヶ岳の乙女の水も瑞牆山みづがきの水も及ばない。足久保の水には味があるのだ。他の山の水とは違う味があるのである。土が違うせいだろうか。突先山にはこのうまい水がふんだんにある。

これはとてつもない幸せである。その点、水が豊富にあっても大腸菌に汚染されていて飲むことのできない穂高の山々はつまらない。

日本の神道はなぜか山が御神体である。麓と頂上には神社がある。日本一高い山、富士山には浅間神社があり、このはなさくやひめが奉られている。手軽なハイキングコースとして静岡市民に親しまれている竜爪山や真富士山も御神体となっていて、登山道の所々に丁目石や石仏があり、なぜか登山者を安心させてくれる。山が御神体であると言いたが、かといってすべての山が御神体であるというわけでもない。御神体になるには何かしら条件があるようだ。槍ヶ岳は 3,000m を超える名峰だが、御神体であるとは聞かない。残念ながら突先山も御神体の選にもれたようだ。けれども栃沢へ下る道と頂上へ至る分岐点となっている釜石峠は古来大川と足久保を結ぶ峠道として人びとに親しまれてきただけあって、「歯痛さま」と呼ばれる如意輪観音が奉られている。この観音様は頬に手をあてて優しい顔をしているからである。

突先山の頂上は、その名のとおり、尖っていて狭い。大勢のグループが登ってきたりすると身動きできなくなってしまう。樹林帯の中の頂上なので 360° の展望とはいかないが、真富士越しの富士山も、南アルプスの山々もよく見える。山に登ったら、それぞれに個性のある周囲の山に会うことも楽しみの一つだが、突先山はその欲求も十分満たしてくれる。

冬、暖かくてあまり雪の降らない静岡でも 1,000m 級の山になると雪が積もる。雪国の人にとっては雪など面白くもなんともないだろう。むしろ厄介物かも知れない。しかし静岡人にとっては「雪見遠足」に行くほど雪は楽しみなものである。山道を歩いている時にちらちら積雪を見たり、幸運にも雪が降ってきたりなどするといつまでも立ち去りがたい気分になる。真っ白な雪は心の中まで白くなるほど美しい。

頂上から下る道として楽しいのは、大山経由で谷沢に下るコースだ。他にも釜石峠まで戻って栃沢に下るコースや、大山経由で大原に下るコースもあるが、林道歩きが長かったり、変化のない道がずっと続いたり難点がある。突先山から大山へは短い急坂を下ると林道に出てしまう。林道を 30 分ほど歩くと無線中継塔のある大山頂上に出る。頂上から眺める富士山は遮るものがなくとても綺麗だ。ここからは東海自然歩道に入る。樹林帯の中の土の柔らかさを足の裏で感じながらぐんぐん下っていく。所々伐採地があり展望が楽しめる。登っているときにはなぜこんなきついのになんか行くのだらうと思うのに、フィナーレが近づくとなぜか次の山行を考えてしまう。山というのは不思議な力をもっている。

アウトドアブームの昨今、山に登る人が中高年を中心に増えてきているという。北アルプスや八ヶ岳も人々を引きつける魅力的な山であるが、静岡から行くとすると日帰りは難しい。幸い、静岡は 1 日で登ることができ、下山して温泉で疲れを癒すことができる山々に恵まれている。突先山はそんな里山の一つである。

(法経短期大学部・図書館委員)

◇ 土田先生お薦めの山の本： 日本百名山／深田久弥著 新潮社 (291.09/F71, 454.4/1)

◇ 図書館に所蔵する登山関係の主な本： 静岡県日帰りハイキング (291.54/O42)

日本の名山 全 12 巻 (291.08/H12) 静岡の 100 山 (291.54/SH94)

ヒマラヤの高峰 全 5 巻 (295.58/F71) 富士山 (291.51/E59)

テラム・カンリ 1975 - 静岡大学カレッジ遠征の記録 - (786.1/SH94)

そして山旅派のバイブル、あの「アルプ」が 107 号から終刊 300 号迄 3 階雑誌書庫に有ります。

他に、分類番号 290 の地理・地誌・紀行、780 のスポーツ・体育に色々所蔵しています。

学生の寄稿エッセイ

私はいかに図書館を利用してきたか

丸 山 剛 史

私は教育学研究科で戦後日本の技術教育史を勉強している者ですが、私がいかに大学附属図書館を利用してきたか、について述べてみます。

私が大学附属図書館を本格的に利用するようになったのは、学部の4年生になり、卒業論文をまとめるために資料を蒐集するようになってからです。この頃、初めて「閉架」図書の存在も知りました。開架に配架されている図書は、大学の蔵書のごく一部であることに驚いたものです。ところで、卒業論文ともなると、必要な著作・論文は、たいてい大学図書館に所蔵されておらず、参考調査係の職員の方の手を煩わし、国内の他大学・国外の図書館に複写して送っていただいたり、借り出していただかなければなりません。私の場合、旧ソビエトの著名な技術史家・ダニレフスキーの講演筆記パンフレット（1944）をアメリカの議会図書館に複写していただいたときには、職員の方にたいへんお世話になりました。文献複写の「いろは」も知らない私に、懇切丁寧に応対してくださったことは忘れられません。

修士課程に進学した後、ある技術教育研究者の論文・著作目録を作成する機会に恵まれました。このときも、参考調査係の職員の方にお世話になりました。図書館の蔵書目録、参考調査係のオンライン・データベースによる検索だけでなく、FAXにより他大学に所蔵調査を依頼していただいたこともありました。なぜなら、蔵書目録についてはすべての大学・研究機関の目録を所蔵しているわけではないからです。また、オンライン・データベース上では無いことになっていても、実際には所蔵していることも多いからです。

ふりかえてみると、私の場合、「いかに図書館を利用してきたか」というより、「どんなに職員の方々のお世話になってきたか」といった方が適切な気がします。(教育学研究科学生)

本と（本当）の仕事

伊 藤 哲

図書館をよく利用する人なら、時々本や本棚の位置が微妙に変化している事に気づく事があるのではないだろうか。これは図書館の限りあるスペースをより有効に利用するための工夫である。このような工夫は普段学生が入れない書庫の中でも行われている。

書庫は図書館の1F～3Fにあり、納められている本は開架の本よりもはるかに多い。特に雑誌・新聞や洋書が多い。雑誌・新聞などは毎月あるいは毎日発行されるので数が多くなるのは当然である。それ以外の本も長い年月が経てば同様である。大切な資料や本ばかりなので捨てるわけにはいかない。そうなれば整理整頓しかない！

と言う訳で書庫の整理整頓作業が始まった。僕はアルバイトとしてその作業を行った。もちろん僕は動いただけ。どこの本をどう移動させて、空いた所に何を運び込むか考えたのは図書館職員の方。本当にわずかなスペースを見つけては本をつめたり、本棚の高さをかえたりして、まとまったスペースを確保した。「ちりもつもれば．．．」で結構多くの本が納まるものだ。

しかし、この本を送る作業というものはそんな楽なものではなかった。本はほこりまみれだし、辺りは暗ぼったい。十日程度の短い間だったから良かったものの、職員として毎日あんなことをしていたら大変だ。まさに本にうまれるのが好きな人でないと．．．。図書館に限った事ではないが、結局こうやって毎日地味な事をしている人がいるからこそ便利に利用できるのではないだろうか。本の開架率アップを希望すると同時に、図書館の见えない苦勞を考える気持ちもアップさせたいものだ。仕事なんて、図書館の本と同様見える部分はほんの少ししかないのだから。

(理学部3年)

古書を通じた古典との対話

白 木 勝 規

およそ古書には二通りあって、一つは今流行の「お宝」もの、そしてもう一つはそうでないものである。漢籍の場合、本邦に比べ印刷の歴史が長いため、基本的なものに前者はあまりないと思われる。大変なものになると大そうな箱に収納されて鎮座坐しましていただく外はないが幸い漢籍には道を誤って床の間でふんぞり返っているものはないようである。

さて、私はかつて漢籍の演習を受けた事があったがその際使用したのは殆んど線装の古書であった。本図書館書庫の二階に陣取ってほぼ半日にらめっこをしたものである。なぜ私が線装の古書にこだわったかという本のもつ温もりと本と会話が可能であるという二点が挙げられる。中国の古書は多くがやわらかな表紙であり手になじみ易く、吉川幸次郎氏の言葉を借りれば「文明の柔らかさ」を表しているようでもある。黄色がかった紙とその感触は、マドレーヌぬきでどこか遙か昔へ誘うようでもある。しかしこうした表面的な温もりに反して中身は点も何も打っていないもので、眇として漢字ばかりの海である。しかし読み手は一点さえゆるがせに出来ないのであり、点を打つことは学力を評価されることだと言っても過言ではない。ところが古人の手擦れが見られる古書は朱で点を打ち^{きょうかく}匡郭の外に書込みをしているものがある。私はこうした本に出会うと非常な喜びを感じる。私はその本を著わした人とその本を手にした先人とも対話しつつ一葉一葉進み得るからである。古人の点が誤っていることもあるし、古人に解釈の誤りを糺されることもある。とにかく同行二人、頼もしい水先案内人なのである。

こうして目にはさやかに見えないのだが、私と私を教導する先人との対話そして更に著した人との対話というものが、古書を以て古典を学ぶ醍醐味ではないかと思う。今、漢籍を単なる資料としてではなくその世界に耽溺せんと願う人は、いやそうでない方も一度この対話を試されてはいかがだろうか。叩いてみないと開かれない扉もあるからである。

(人文学部4年)

教養著作寄贈図書一覧 (本館)

*このリストは本学教職員により著作(等)され図書館にご恵贈していただいた図書を一覧したものです。受入期間は平成5年から平成7年までです。なお、所属は受入当時の所属を示します。

荒川紘(教養部)

◇世界を動かす技術=車 海鳴社【536.02/A63】開架

伊藤正義(教育学部)

◇賢者の教え:中世スペイン説話集 / ベトリス・アフォソ著。<訳>岩波ブックセンター【992/P46】

◇イソップ寓話集 / イリム・キヤストン著。<訳>岩波ブックセンター【991.7/C27】開架

岩垣功(農学部)

◇果物をつくる / 北川博敏[ほか]著。<共著>八坂書房【620/E61/3】

岩田礼(人文学部)

◇中国の方言地理学のために。<共訳>好文出版【828/G87】

大橋昭夫(教育学部)

◇後藤象二郎と近代日本 三一書房【289.1/G720】

大村知子(教育学部)

◇衣生活論 / 内藤道子・勢田二郎編著。<執筆>建帛社【593/N29】開架

大森巍(附属放射化学研究施設)

◇Technetium and rhenium: their chemistry and its applications. <共編>Springer-Verlag【430.8/T65/176】

小和田哲男(教育学部)

◇しずおかの女たち 4 / 静岡女性史研究会編。<執筆>静岡女性史研究会【367.2/Sh94/4】

鎌田哲宏(教養部)

◇日鋼室蘭争議三十年後の証言 / 鎌田哲宏・鎌田とし子著。<共著>御茶の水書房【366.66/Ka31】

久島茂(教育学部)

◇吉沢典男教授追悼論文集 / 吉沢典男教授追悼論文集編集委員会編。<執筆>東京外国語大学音声学研究室【804/Y94】

熊野義介(教育学部)

◇国際理解教育における帰国子女教育 / 天野正治編。<執筆>エムティ出版【371.5/A43】

小桜義明(人文学部)

◇地方中核都市の街づくりと政策 / 田中克志・小桜義明編。<共編>信山社出版【318.7/Ta84】

小嶋睦雄(農学部)

◇静岡県森連五十年史。<編>静岡県森林組合連合会【650.76/Sh94】

小島義夫(農学部)

◇南アルプスカモノシカ保護地域特別調査報告平成3・4年度 / 静岡県教育委員会[ほか]。<調査指導委員>静岡県教育委員会【498.85/Sh94/1991-2】

◇後藤正夫(名誉教授)

◇Fundamentals of bacterial plant pathology. Academic Press【615.81/G72】

◇旅路。後藤正夫教授停年退官事業会【289.1/G72】

坂本重雄、山脇貞司(人文学部)

◇高齢者生活保障の法と政策。<編著>多賀出版【369.26/Sa32】

坂本重雄(人文学部)

◇道標: 静岡大学模範裁判三十五年史 / 浅原敏尚[ほか]編。<編集協力>静岡大学模範裁判史編集委員会【327.19/Mi13】

◇集団的労使関係。<共著>有斐閣【366.14/Sa32/S1】開架

◇個別的労働関係。<共著>有斐閣【366.14/Sa32/S2】開架

◇団体交渉と協論。日本評論社【366.14/Sa32】開架

静岡大学教育学部附属静岡小学校

◇子ども自らが解決していく学習:ひとりひとりの追求過程の充実を求めて。明治図書出版【375/Sh94】開架

◇新たな自分に出会っていく授業:子供の論理のひろがり求めて。明治図書出版【375/Sh94】開架

◇その子らしさがあふれ出る授業:生き方の共鳴を求めて。明治図書出版【375/Sh94】開架

静岡大学教育学部附属静岡中学校

◇初発問:わかり合う授業の創造(佐伯胖編)。<編>明治図書出版【375/Sa14】

静岡大学教育学部附属浜松小学校

◇統合活動と統合学習:体験的に学ぶ授業の創造。第一法規出版【375/Sh94】

静岡大学教育学部附属浜松中学校

◇「私にとっての真実」をもとめて。<編>静岡大学教育学部附属浜松中学校【375/Sh94/1993】

◇自己の生き方を探る授業の創造(梶田毅一)。明治図書出版【375/Ka23】

◇価値観の形成を図る手だての組織化。<編>静岡大学教育学部附属浜松中学校【375/Sh94/1991】

◇「人間のよばらしさ」への気づきを通して。<編>静岡大学教育学部附属浜松中学校【375/Sh94/1992】

静岡大学教育学部島田中学校

◇生徒の「思い」が育つ授業:認知と情意を結ぶ「教科学習観」。明治図書出版【375/Sh94】

静岡大学教育学部保健体育科

◇伊藤二郎教授退官記念誌。<編>静岡大学教育学部保健体育科【375.49/Sh94】

静岡大学写真部

◇静岡大学写真部作品集。<編>静岡大学写真部【748/Sh94/1990】

静岡大学農学部

◇バイオサイエンスとバイオテクノロジー(平成4年度農学部公開講座)。静岡大学農学部【464/Sh94】

静岡大学農学部木材化学研究室

◇研究論文集:寺谷文之教授退官記念:甲斐勇二教授退官記念。<編>農学部木材化学研究室【658.04/Sh94】

篠原三郎(人文学部)

◇教師稼業:篠原三郎歌集。こうち書房【911.168/Sh67】開架

◇キャンパスの四季:歌集。みずち書房【911.168/Sh67】開架

志村義雄(元静大教授)

◇日本のイノデ属(シダ植物)。志村義雄【476.7/Sh56】

◇富士山のシダ。志村義雄【476/Sh56】

杉山恵一(教育学部)

◇ふるさとの自然 伊豆編/ 静岡県県民生活局自然保護課編。<監修>執筆:静岡県【450.915/Sh94】

◇ふるさとの自然 西部編/ 静岡県県民生活局自然保護課編。<監修>執筆:静岡県【450.915/Sh94】

杉山忠平(名誉教授)

◇Adam Smith: international perspectives. <編>Macmillan Press【331.42/A16】

◇Origins of economic thought in modern Japan. Routledge【332.21/Su49】

◇アダム・スミスを語る / 水田洋、杉山忠平編。<編>ミネルヴァ書房【331.42/Mi97】

田中克志(人文学部)

◇不実登記責任論・入門. 信山社【327.17/Ta84】

田中克志・小椋義明(人文学部)

◇地方中核都市の街づくりと政策. <編>信山社出版【318.7/Ta84】開架

土隆一(名誉教授)

◇Pacific neogene : environment, evolution, and events. <編>University of Tokyo Press【456.75/P12】

◇Pacific neogene event studies. <編>IGCP Project 246, Shizuoka University【456.75/P12】

◇Preliminary reports of geological research on the origin and the development of the circum-pacific orogenic belt. <編>IGCP Project 246, Shizuoka University【455.6/R28/1】

◇Trans-Pacific correlation of cenozoic geohistory. <編>IGCP Project 246, Shizuoka University【455.6/R28/2】

◇Trans-Pacific correlation of neogene geologic events <編>IGCP Project 246, Shizuoka University【455.6/R28/3】

◇Pacific neogene events in Japan and South America. <編>IGCP Project 246, Shizuoka University【455.6/R28/4】

◇Pacific neogene events : their timing, nature and interrelationship ... (2v). <編>IGCP Project 246, Shizuoka University【456.75/P12】

◇Pacific neogene : environment, evolution and events (2v). <編>IGCP Project 246, Shizuoka University【456.75/P12】

◇Pacific neogene events in time and space. <編>【456.75/P12】

◇”東海地震”防災セミナー1992予稿集. <執筆>東海地震防災研究会【453.215/Sh94/1992】

◇”東海地震”防災シンポジウム1991予稿集. <執筆>東海地震防災研究会【453.215/Sh94/1991】

◇静岡の地球科学土隆一先生退官記念事業会編. <執筆>土隆一先生退官記念事業会【455.154/Ts25】

◇富士山 : その自然のすべて / 諏訪彰編. <執筆>同文書院【402.915/Su87】

◇静岡県地学ガイド : 静岡県の地質とそのおいたち(地学のガイドシリーズ 24) 坂本雅子編. <監修・執筆>コロナ社【455.154/M11】

◇今だから知りたい東海地震. <編>静岡新聞社【453.215/Ts25】開架

◇富士山のなりたちと明日の姿 : 報告書. <執筆>建設省富士砂防工事事務所【455.8/F66】

外山知徳(教育学部)

◇これからの児童福祉 / 福田志津枝編著. <執筆>ミネルヴァ書房【369.4/F74】

◇家政知を考える / 長嶋俊介・乗本秀樹編. <執筆>昭和堂【590/N22】

◇新・住居学 : 生活視点からの9章/渡辺光雄・高阪勲編. <執筆>ミネルヴァ書房【597/W46】

中原英雄(教育学部)

◇遊びをせんとや生まれけむ : 教育論集. 鶴書院【370.4/N33】

中林敏郎(名誉教授)

◇コーヒー焙煎の化学と技術. <共著>弘学出版【619.89/Ko27】

◇食品の変色の化学(木村進)編著. <共編>光琳【498.53/Ki39】

長谷川信(教育学部)

◇掛川市史 下巻. 資料編近代 / 掛川市史編纂委員会編. <編>掛川市(2冊)【215.4/Ka24】

廿日出正美(農学部)

◇目でみるゴルフ場の芝草・樹木害虫 : 発生特性と被害・防除. ソフトサイエンス社【629.7/H42】

林邦雄(教育学部)

◇せいはいの教育20年 : この子らの地平を拓く / 静岡県立静岡北養護学校著. <編序>コレール社【378.4/Sh94】

原秀三郎(人文学部)

◇金谷町史 地誌編/金谷町史編纂委員会編. <編纂委員長>金谷町役場【215.4/Ka47】

◇幕末開港 中 / 下田市史編纂委員会編. <編纂委員長>下田市教育委員会【215.4/Sh51/3(2)】

◇下田市史 資料編3 幕末開港 下の1 / 下田市史編纂委員会編. <編纂委員長>下田市教育委員会【215.4/Sh51/3(3)1】

藤田等(名誉教授)

◇弥生時代ガラスの研究 : 考古学的方法. 名著出版【210.2/F67】

細井淳四郎先生退官記念論文集出版事業会(教育学部)

◇地域をめぐる自然と人間との接点. <編>細井淳四郎先生退官記念論文集出版事業会【290.4/H94】

本多隆成(人文学部)

◇大谷探検隊と本多惠隆. 平凡社【188.72/H84】

◇金谷町史 資料編2 近世 / 金谷町史編纂委員会編. <執筆>金谷町役場【215.4/Ka47】

◇森町史 資料編2-3. <監修・執筆>森町(2冊)【215.4/Mo46/2-3】

◇豊岡村史 通史. 資料編2-3 / 豊岡村史編纂委員会編. <編・執筆>豊岡村(3冊)【215.4/To91】

牧野紀文(非常勤講師)

◇ヘーゲルからレーニンへ. 2版. 鶏鳴出版【309.3/Ma35】開架

◇ヘーゲル研究入門. 鶏鳴出版【134.4/Ma35】開架

◇ヘーゲルの修行. 2版. 鶏鳴出版【134.4/Ma35】開架

◇ヘーゲルと自然生活運動. 鶏鳴出版【365/Ma35】開架

◇ヘーゲルと共に. 2版. 鶏鳴出版【104/Ma35】開架

◇ヘーゲル的社會主義. 鶏鳴出版【309.3/Ma35】開架

◇先生を選べ. 3版. 鶏鳴出版【370.4/Ma35】開架

◇経済学批判の序言 / マルクス著. <訳>鶏鳴出版【331.6/Ma59】開架

◇関ロドイツ語学の研究. 2版. 鶏鳴出版【840.4/Ma35】開架

◇哲学夜話. 鶏鳴出版【104/Ma35】開架

◇田舎裏端. 鶏鳴出版【049.1/Ma35】開架

◇小論理学 上巻. 上巻別冊 訳者による注解. 下巻. 下巻別冊 訳者による注解 / ヘーゲル著. <訳>鶏鳴出版(4冊)【134.4/H51】開架

◇精神現象学 上巻. 上巻別冊 訳者による注解 / ヘーゲル著. <訳>鶏鳴出版(2冊)【134.4/H51】開架

松田慎二(人文学部)

◇アウグスティヌス : その生涯と思想. 行路社【132.1/A96M】開架

松富弘志(法経短大)

◇ヘーゲル政治思想研究序説. 世界書院【311.234/H51M】

水野卓(名誉教授)

◇キノコの薬効と食効. 静岡大学農学部【474.8/Mi96】

村越真(教育学部)

◇村越真の実践オリエンテーリング講座. 日本オリエンテーリング協会【782.3/Mu46】開架

村松敬一郎(農学部)

◇茶の科学. <編>朝倉書店【619.8/Mu48】

◇そろそろお茶の時間. <編著>ぎょうせい【617.4/Mu48】

村松眞一(名誉教授)

◇靈魂の探究者小泉八雲 : 焼津滞在とその作品. 静岡新聞社【930.28/Ko38M】

森野聡子(教養部)

◇ケルト : 生きている神話 / F.ゲイル著. <訳>創元社【230.3/D55】

山口幸洋(人文学部)

◇東海の方言散策(山田達也)編著. <共著>中日新聞社【818.5/Y19】

◇伊豆大島方言調査報告書. <編>山口幸洋【818.36/Y24】
 ◇NHK 全国方言資料研究テキスト 1-3. <編>山口幸洋(3冊)
 【818/Y24/1-3】
 ◇オサンドンという名の鳥:ことばの歴史を求めて. 近代文芸社
 【818/Y24】
 ◇環浜名湖言語地図. <編>山口幸洋【818.54/Y24】
 ◇全国方言談話資料集 4. <編>山口幸洋【818/Y24/4】
 ◇全国方言談話資料・日本昔話編 1. <編>静岡大学人文学部山口
 研究室【818/Y24/1】
 山崎真秀(人文学部)
 ◇憲法と教育人権. 勁草書房【373.2/Y48】
 山本義彦(人文学部)

◇静岡県鉄道写真集:懐かしのアルバム. <監修>郷土出版社
 【686.215/Sh94】開架
 ◇正木ひろし・清沢冽(日本平和論体系2). <執筆>日本図書セン
 ター【319.8/Ma61】
 山脇貞司(人文学部)
 ◇老人介護と相続法理に関する研究報告書/老人介護と相続法理研究
 会(編). <執筆>老人介護と相続法理研究会【367.7/R62】
 湯浅保雄(農学部)
 ◇龍爪山植物誌/大村敏朗著. <共編>静岡植物研究会【472.154/O64】
 米田芳秋(教養部)
 ◇アサガオ江戸の贈りもの. 裳華房【479.95/Y82】開架

冬季休業中(12月21日から1月10日まで)、休館日、閉館時刻は以下のとおりです。

	開館時間等		開館時間等
12月21日(土)	休館	1月1日(水)	休館
22日(日)	休館	2日(木)	休館
23日(月)	休館	3日(金)	休館
24日(火)	8:30~17:00	4日(土)	休館
25日(水)	8:30~17:00	5日(日)	休館
26日(木)	休館	6日(月)	休館
27日(金)	休館	7日(火)	8:30~17:00
28日(土)	休館	8日(水)	8:30~17:00
29日(日)	休館	9日(木)	8:30~17:00
30日(月)	休館	10日(金)	8:30~17:00
31日(火)	休館	*1月11日以降は平常どおり	

貸出図書の返却期限日の変更

12月2日(月)から1月11日(土)までに貸出した図書の返却期限日は、1月20日(月)となります。

「静岡大学創立50周年記念誌編集室」図書館内に開設

1999年(平成11年)6月1日、本学は創立50年目を迎えます。これを記念して様々な事業が計画されております。その一つとして記念誌の発行が計画され、編集委員会が1996年1月に発足しました。これにともない、今後編集作業を進める拠点として編集室が図書館5階に開設されました。1999年の発行迄編集作業の中心となります。編集室開設を祝って10月1日、永井学長、山本委員長を始め委員、関係者が多数出席し開室式が行われました。

「静岡県図書館職員研修会・専門研修(大学・専門図書館)」を開催

附属図書館では10月4日、静岡県図書館協会主催による標記研修会を図書館会議室で開催しました。この研修会は県下の主に大学図書館等の中堅職員を対象に、今後の図書館サービス向上のための知識・技能を習得するため毎年開催されているものです。この日は大学図書館職員の他に公立図書館の館長、職員を含め32名の参加者があり、館内見学の後、情報処理センター分室でインターネット利用による情報検索の演習を行い大変好評でした。こうした交流を深める中で県内の図書館のネットワークを一層強いものとし、相互利用に役立てて行きたいと考えております。